

2014年12月12日

報道関係各位

中部学院大学
岐阜各務野高校

岐阜各務野高校と中部学院大学が 高大連携でアプリを共同開発

岐阜県立岐阜各務野高校（臼井 俊裕 学校長）と中部学院大学（古田 善伯 学長）は、2005（平成 17）年度から高大連携協定を結んでいます。今年度は、岐阜各務野高校ビジネス科・情報科の生徒と、中部学院大学経営学部（今井 春昭 学部長）経営学科の安藤信雄教授・同ゼミ生が共同して、iPadなどで使えるアプリの共同開発を始めました。

このアプリは、安藤教授の研究分野である経済学の理論「比較優位論（※1）」を、ビジュアルを取り入れながらゲーム感覚でだれでもわかりやすく理解するためのものです。高校では「課題研究」のテーマとしてアプリの開発に取り組み、大学では、安藤教授が監修し、今後、コミュニケーション力や専門性の向上、経済理論の社会への普及などに活用していきます。

記

【アプリ共同開発 公開発表】

- 日時 2014（平成 26）年 12 月 18 日（木）午前 11 時 35 分～12 時 15 分
- 場所 岐阜県立岐阜各務野高等学校 情報科、ビジネス科
（各務原市鵜沼各務原町 8 丁目 7-2 電話 058-370-4001）
- 参加者 岐阜各務野高校 ビジネス科 3 年 2 人、情報科 3 年 2 人（計 4 人）
中部学院大学 経営学部経営学科 安藤 信雄 教授、同ゼミ生（4 人）

※1 比較優位論とは

異なる複数の生産主体が、それぞれ得意の分野に特化すれば、より多くの生産性を得られるという経済学の理論

■ 経緯

各務原市の川島ライフデザインセンターが主催する「子ども起業家育成講座」で、中部学院大学の安藤教授が、子どももわかる教材を作成。iPad などアプリでの活用を検討していたところ、同講座の講師を通じて、アプリ開発で実績があり、同大学と高大連携を締結していた岐阜各務野高校との接点があり、プロジェクトを立ち上げることになりました。

同大学経営学部の専門演習（担当：安藤信雄 教授）による学習の一環として、同高校情報科における iPhone、iPad 用アプリケーション・ソフト開発活動（担当：日々野清高・教諭）、および同ビジネス科における授業（担当：服部幸弘 教諭）との連携により、経営学理論「比較優位論」の学習用教材として子どもから大人まで楽しめる学習用アプリケーション・ソフトの開発を行うこととなりました。

■ これまでの経過

- ・ 10月23日（木）16:00～（中部学院大学 各務原キャンパス）
第1回打ち合わせ メンバー初顔合わせ
アプリの全体像と分担、課題の確認
- ・ 11月13日（木）16:00～（中部学院大学 各務原キャンパス）
第2回打ち合わせ
名称の決定とアルゴリズムの解説と課題の確認
- ・ 12月18日（木）11:35～12:20（岐阜各務野高校）
第3回打ち合わせ・発表会
アルゴリズムの調整とデザインと動作の確認

■ アプリ開発での成果

[岐阜各務野高校]

- ・ アプリ開発の技術と高度な理論を組み合わせ、質の高いアプリを作成できた
- ・ 他にはないアプリ作成を経験
- ・ 大学で学ぶ理論を、アプリ開発を通じて理解できた

[中部学院大学]

- ・ 研究理論を使った教材に発展する
- ・ 地域の創生、経済の発展、雇用の拡充につながる契機となる

■ 今後の予定

[岐阜各務野高校]

- ・ 試作アプリの完成と、動作検証
- ・ 米アップル社「アップストア」へのリリース
- ・ 「こども起業家育成講座」への参加

[中部学院大学]

- ・ 中国版、英語版の作成
- ・ 「子ども起業家育成講座」にてアプリを活用
- ・ 学内での授業などでの活用

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

岐阜各務野高校 担当：日々野

TEL:058-370-4001 (代表) Mail : p30195@gifu-net.ed.jp

中部学院大学総合研究センター 担当：浅野

TEL:0575-24-2238 (関キャンパス) Mail : cgrd@chubu-gu.ac.jp

【参考資料】

■ 岐阜各務野高校の取り組み

【iPad アプリ開発の過去の実績】

2013（平成 25）年度秋に、岐阜県、公益財団法人ソフトピアジャパンが主催する「オータムキャンプ in ソフトピアジャパン」に参加したことをきっかけに情報科がアプリ開発を始めた。この取り組み後、4本のiPhone向けゲームアプリをアップストアにリリースした。

「ふわふわどうぶつあつめ」

「真竹取物語」

「リア充爆発しろ！」

「鶺鴒のきもち」

また、そのうちの1本「鶺鴒のきもち」が新聞・テレビ・ラジオ報道で取り上げられた。岐阜市の「長良川うかいミュージアム」では今年度の5月連休中と夏休み期間中に体験会を実施した。

それまでは、ソフトピアジャパン関連企業のアプリとしてリリースされていたが、地域貢献ならびに情報科の指導教材としてアプリ開発を確立させるため、Appleにディベロッパーとして登録。「鶺鴒のきもち for iPad」として「長良川うかいミュージアム」公認アプリとしてリニューアル版をリリースした。

また、昨年度、県内で初めてとなる高等学校におけるiPad導入と電子教科書の試験導入を行い、成果発表を行った。今年度より、情報科の生徒は2年から生徒全員がiPad(mini)を購入している。

【2014（平成 26）年度開発中アプリ】

「高大連携アプリ」 … 中部学院大学 経営学部経営学科 安藤信雄教授監修
経済学（比較優位論）を楽しく学べるアプリを共同開発

「岐阜県博物館アプリ」 … iBeaconを使って博物館内の一部を案内するアプリ

「各務原市観光アプリ」 … 各務原市と共同で観光案内をする公式認定アプリ

「ビーコンみくじ」 … 各務原市営バス「ふれあいバス」のバス停にiBeaconを設置
バス停でおみくじが引けるようにするアプリで、
市民サービスを向上させる試験的な取り組み